様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　６月　１日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８３２０１１７
研究課題名（和文）　出土史料による魏晋南北朝史像の再構築

研究課題名（英文）　Restructuring of the historical Interpretation of WeiJinNanBeiZhao by the discovery historical materials

研究代表者
伊藤　敏雄（ITO TOSHIO）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00184672

研究成果の概要：
出土史料をもとに魏晋南北朝史像の再構築をめざし、新出の長沙呉簡に関する研究を進展させ、米納入の書式や邸閣に関する研究を通して、呉が精緻な地方統治を実施していたことを明らかにするとともに、既出・新出の石刻史料をもとに、墓誌の起源と定型化の過程をはじめ、魏晋期の頌徳碑の特徴、晋辟雍碑の歴史的意義、墓誌と公文書との関係、墓誌と文献史料との関係や墓誌の信頼性などを明らかにし、魏晋南北朝史像再構築のための基礎を確立した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
２００７年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
２００８年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総　計	11,400,000	3,420,000	14,820,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：魏晋南北朝史、簡牘、石刻史料

１．研究開始当初の背景

(1)　中国で、魏晋南北朝史に関する新出土史料の発見が増大の一途を辿っていた。その結果、従来から知られていた墓誌・碑文・造像銘などの石刻史料と併せて研究の見直しと深化が可能になってきた。紙文書・簡牘については、1996 年に湖南省長沙市で総計約 14 万点にのぼる呉簡が発見され、更に甘粛省玉門市花海郷の晋律（2002 年）、湖南省郴州の後漢～三国時代の簡牘約 400 点と晋簡約 800 点（2004 年）が発見され、魏晋史の見直しを迫る勢いであった。

(2)　魏晋南北朝時代の際だった特徴として、分裂時代、貴族制、民族や人の移動と民族融合、村の成立、江南開発の進展、中国における仏教・道教の確立などが挙げられ、従来の研究では、これらの問題や魏晋南北朝時代の政治的過程、政治システム、権力構造などについて、それぞれ個別的な研究が重ねられてきた。しかし、研究の細分化が叫ばれて久しく、これらの研究を更に進展・深化させ、魏晋南北朝史像を明確にするためには、個別的研究の深化とともに、それぞれを総合するような視点からの共同研究が必要であった。

(3)　したがって、簡牘や石刻史料などの出土史料をもとに、共同研究によって、魏晋南北朝史像を再構築する必要性が高まっていた。

２．研究の目的

(1)　本研究は、先ず、近年続々と増加している新出の出土史料、特に簡牘や石刻史料を中心に利用しながら、旧出土史料と併せて、魏晋南北朝史に関する各研究の進展と見直しをはかることを目的とする。その際、出土史料を中心とする研究は個別細分化に陥る傾向を持っているので、行政システムの展開、官と民や吏と民の接点という視点を基軸に共同研究によって総合化して展開する。

(2)　次に、以上の研究を通して社会統合との関連や社会統合の実態を明らかにし、基層社会について理論的・実証的に再検討することを目的とする。あわせて、魏晋南北朝時代の諸特徴について、出土史料による共同研究を通して再確認や見直しをはかりながら、基層社会像を明確にすることによって、魏晋南北朝史像を再構築することを最終的目的とする。

３．研究の方法

(1)　年に数回、研究打合せを行い、研究方法、研究状況、研究内容について共同討議を行った。

(2)　出土史料のデータ・ベース化を推進した。

(3)　中国で、出土史料に関する実地見学・調査を実施した。

①　2007年3月に洛陽で出土史料や遺跡の実地見学・調査を実施した。

②　2007年10月の中国魏晋南北朝史学会年会終了後、長沙または南京、上海の博物館で、出土史料の見学・調査を実施した。

(4)　共同討議やデータ・ベースを踏まえて、研究代表者及び分担者等が、各分担部分を中心に、文献史料や出土文物・文字資料、考古学的成果をもとに研究を進めた。

(5)　2007年10月の中国魏晋南北朝史学会年会に参加し、研究成果を報告するとともに、海外共同研究者と研究打合せを行った。

(6)　2008年9月に海外共同研究者等を招聘し、国際学術シンポジウムを開催し、研究成果を報告し、討議するとともに、研究打ち合わせを行った。

(7)　研究打合せを行い、研究内容について共同討議し、研究を総括した。

４．研究成果

(1)　出土史料のデータ・ベース化を推進し、以下の成果を得た。

①　簡牘史料について、長沙呉簡研究会の協力を得て、長沙呉簡の竹簡（弐）・(参)釈文のデータ・ベース「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡（貳)』釋文・原注データ・ベース」、「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡（參)』釋文・原注データ・ベース」（エクセル版及び桐版）を編集した。

②　石刻史料について、研究協力者の室山留美子の協力を得て、データ・ベース化を推進し、その一環として伊藤敏雄(主編)中村圭爾・室山留美子(編)『魏晋南北朝墓誌人名地名索引　―『漢魏南北朝墓誌彙編』『新出魏晋南北朝墓誌疏証』篇―』（科研研究資料）を編集した。

(2)　簡牘史料について、伊藤敏雄・福原啓郎・關尾史郎が新出の長沙呉簡を中心に研究を推進し、伊藤敏雄「長沙走馬楼呉簡中の『邸閣』再検討　―米納入簡の書式と併せて―」が、米納入に関する書式を明らかにするとともに、「邸閣」が文献中の邸閣（軍事倉庫）と異なり、職名として使用され、米などの納入・移動を監督する職名として機能していたことを明らかにし、従来、後進地域として扱われてきた呉が、精緻な地方統治を実施していたことを明らかにした。

(3)　中国西北地方出土の紙文書史料について、伊藤敏雄・關尾史郎が研究を行ったが、本研究課題に関する成果として、伊藤敏雄「楼蘭出土の魏晋期書信の書式をめぐって―上書きと冒頭部分を中心に―」が、楼蘭出土魏晋期書信の冒頭部分の書式を整理・検討して分類するとともに、上書きと書信との関係を再検討した。

(4)　石刻史料について、2008年9月に海外共同研究者等を招聘して国際学術シンポジウム「魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開―魏晋南北朝史像の再構築に向けて―」を開催し、石刻史料を用いた研究成果を報告して討議した。更に、シンポジウムでの報告を中心に、石刻史料を用いた研究をとりまとめ、科研報告書別冊『魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開　―魏晋南北朝史像の再構築に向けて―』を編集・印刷した。その結果、以下の成果を得た。

①　窪添慶文「墓誌の起源とその定型化」は、後漢・西晋の墓碑・墓誌から始めて、南朝・北朝墓誌を対象として、墓誌の記載内容と記載順序を重視しながら、墓誌の起源とその定型化の過程を明らかにした。

②　葭森健介「魏晋の頌徳碑に関する覚書」は、魏晋期の頌徳碑について、正史に残る立碑関係史料をもとに、漢碑と比較しながら、その概要と特徴を整理・分析した。

③　福原啓郎「晋辟雍碑の再検討　―碑陰題名の分析を中心として―」は、西晋辟雍碑について、碑陰の題名の分析・検討を中心に歴史的意義を再検討した。

④　中村圭爾「両晋南朝墓誌と公文書」は、両晋南朝期の墓誌と公文書との関係を明らかにした。
⑤　海外共同研究者の李凭「从北魏平城時代的一批墓銘看京畿移民的社会地位与思想感情」は、大同市周辺新出の石刻史料等をもとに北魏平城時期の移民社会の地位と思想感情を明らかにした。
⑥　特別参加の趙水森（洛陽師範学院図書館長)「洛陽出土魏晋南北朝墓志的発現収蔵与著録研究」は、洛陽出土魏晋南北朝墓誌の発見・収蔵と著録・研究状況を明示した。
⑦　海外共同研究者の朴漢済「魏晋南北朝時期墓葬習俗的変化与墓誌銘的流行」は、魏晋南北朝時期の墓葬習俗の変化と墓誌銘の流行との関連を明らかにした。
⑧　窪添慶文「正史と墓誌　―北魏墓誌の官歴記載を中心に―」は、北魏墓誌の官歴記載を中心に正史と墓誌との関係を総合的に論じ、その関係や墓誌の官歴記載の信頼性を明らかにした。
⑨　科研報告書別冊掲載の成果以外にも、關尾史郎が「『五胡』時代の墓誌とその周辺」を公刊し、「五胡」時代の墓誌の実例を整理してその特質を確認した上で、各種埋納文物を検討し、墓誌との異同を明らかにした。

(5)　上述の国際学術シンポジウムは、魏晋南北朝史と石刻史料に関する本格的なシンポジウムとして注目を集めるとともに、好評を得、シンポジウム予稿集や『魏晋南北朝墓誌人名地名索引』、科研報告書別冊は、国内外の研究者等から寄贈要請を受けている。

(6)　魏晋南北史像の再構築という最終目的に到達できず、個別実証研究の集積という誹りを免れないかも知れないが、石刻史料を中心とした共同研究は、魏晋南北史像の再構築に向けて大きな成果を挙げたと判断される。また、簡牘史料に関するデータ・ベースや研究成果も、今後の研究の進展に寄与するはずである。総じて、魏晋南北史像再構築のための基礎を確立したと判断される。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２０件）

① 伊藤敏雄「楼蘭出土の魏晋期書信の書式をめぐって　―上書きと冒頭部分を中心に―」土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』(財)東洋文庫、45～66頁、2009年、査読無（依頼原稿）
② 關尾史郎「『五胡』時代の墓誌とその周辺」『環日本海研究年報』第16号、1～11頁、2009年、査読無
③ 葭森健介「魏晋の頌徳碑に関する覚書」伊藤敏雄(編)『魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開　―魏晋南北朝史像の再構築に向けて―』(科研成果報告書別冊）大阪教育大学、32～46頁、2009年、査読無
④ 福原啓郎「晋辟雍碑の再検討　―碑陰題名の分析を中心として―」同前、47～58頁、2009年、査読無
⑤ 中村圭爾「両晋南朝墓誌と公文書」同前、59～78頁、2009年、査読無
⑥ 窪添慶文「正史と墓誌　―北魏墓誌の官歴記載を中心に―」同前、151～182 頁、2009年、査読無
⑦ 窪添慶文「墓誌の起源とその定型化」『立正史学』第105号、1～22頁、2009年、査読無、同前に増補収録
⑧ 伊藤敏雄「楼蘭（鄯善）国都考」『西北出土文献研究』第6号、27～44頁、2008年、査読無
⑨ 伊藤敏雄「日本における魏晋期土地制度史研究百年」『歴史研究』(大阪教育大学)第45号、109～130、2008年、査読無
⑩ 福原啓郎「『釈時論』の世界」『京都外国語大学研究論叢』第71号、1～24頁、2008年、査読無
⑪ 福原啓郎「『支那史学史』の特徴と意義―とくに第七章・第八章の分析を通して―」河合文化教育研究所『研究論集』第5集、47～66頁、2008年、査読無
⑫ 福原啓郎「賈謐の「二十四友」に所属する人士に関するデータ」『京都外国語大学研究論叢』第70号、1～32頁、2008年、査読無
⑬ 葭森健介「内藤湖南の文化史について」河合文化教育研究所『研究論集』第5集、31～45頁、2008年、査読無
⑭ 伊藤敏雄「長沙走馬楼呉簡中の『邸閣』再検討　―米納入簡の書式と併せて―」太田幸男・多田狷介(編)『中国前近代史論集』汲古書院、301～326頁、2007年、査読無（依頼原稿）
⑮ 長沙呉簡研究会編（伊藤敏雄・阿部幸信主編）「『長沙走馬楼三国呉簡　嘉禾吏民田家莂』釈文補注」『長沙呉簡研究報告』第3集、111～124頁、2007年、査読無
⑯ 伊藤敏雄「米蘭の遺跡とその現状」『西北出土文献研究』第4号、55～64頁、2007年、査読無
⑰ 伊藤敏雄「新発見三国呉簡に見る三国時代」『アジア遊学』第96号、50～55頁、2007年、査読無（依頼原稿）
⑱ 窪添慶文「北魏における滎陽鄭氏」『お茶の水史学』第51号、181～207頁、2007年、査読無
⑲ 中村圭爾「魏晋南北朝的城市与官人」『中日学者論中国古代城市社会』三秦出版社、

23～54 頁、2007 年、査読無（依頼原稿）
⑳ 窪添慶文「文成帝期的胡族与内朝官」張金竜主編『黎虎教授古稀紀念中国古代史論叢』世界知識出版社、180～200 頁、2006 年、査読無（依頼原稿）

〔学会発表〕（計１５件）
① 福原啓郎「晋辟雍碑の再検討　―碑陰題名の分析を中心として―」国際学術シンポジウム「魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開　―魏晋南北朝史像の再構築に向けて―」、2008 年 9 月 14 日、立正大学
② 窪添慶文「正史と墓誌　―北魏墓誌の官歴記載を中心に―」同前
③ 中村圭爾「両晋南朝墓誌と公文書」同前
④ 伊藤敏雄「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡〔参〕』に見る米納入簡の書式、邸閣、水利施設」長沙呉簡研究会例会、2008 年 6 月 28 日、立正大学
⑤ 窪添慶文「墓誌の起源とその定型化」立正史学会大会、2008 年 5 月 31 日、立正大学
⑥ 福原啓郎「賈謐の二十四友をめぐる二三の問題」六朝学術学会第十七回例会、2008 年 3 月 15 日、二松学舎大学
⑦ 伊藤敏雄「郴州出土簡牘について」長沙呉簡研究会例会、2008 年 2 月 16 日、日本女子大学
⑧ 伊藤敏雄「在日本百年魏晋期土地制度史研究的回顧与展望」中国魏晋南北朝史国際学術討論会暨中国魏晋南北朝史学会第九届年会，武漢大学(中国・武漢)，2007 年 10 月 19 日～21 日
⑨ 福原啓郎「魏晋時期文学集団的歴史啓示」同前
⑩ 葭森健介「回顧近代日本的魏晋南北朝史文化史研究　―京都文化史学与六朝文化研究―」同前
⑪ 關尾史郎「日本的＜五胡＞時代史研究―以前世紀的谷川道雄《隋唐帝国形成史論》与今世紀的三崎良章《五胡十六国の基礎的研究》為中心―」同前
⑫ 窪添慶文「墓誌的起源及其定型化」同前
⑬ 福原啓郎「六朝洛陽遺跡調査報告」中国中世研究者フォーラム、2007 年 7 月 21 日、京都大学
⑭ 伊藤敏雄「長沙呉簡における米納入をめぐる諸問題（補考）　―『竹簡〔貳〕』による新知見と併せて―」長沙呉簡研究会、2007 年 6 月 9 日、日本女子大学
⑮ 伊藤敏雄「長沙走馬楼呉簡中的邸閣再探討」中国社会科学院国際学術論壇：簡帛学論壇、2006 年 11 月 5 日～6 日、中国社会科学院歴史研究所（中国・北京）

〔図書〕（計５件）
① 伊藤敏雄(編)『魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開　―魏晋南北朝史像の再構築に向けて―』（科研研究成果報告書別冊）大阪教育大学、184 頁、2009 年
② 伊藤敏雄(主編)中村圭爾・室山留美子(編)『魏晋南北朝墓誌人名地名索引　―『漢魏南北朝墓誌彙編』『新出魏晋南北朝墓誌疏証』篇―』（科研研究資料）大阪教育大学、190 頁、2008 年
③ 東洋文庫古代地域史研究班（太田幸男・窪添慶文等）『水経注疏訳注（渭水篇上)』(財)東洋文庫、499 頁、2008 年
④ 西嶋定生（窪添慶文補注）『晋書食貨志訳注』(財)東洋文庫、328 頁、2007 年
⑤ 中村圭爾『六朝江南地域史研究』汲古書院、631 頁、2006 年

〔その他〕
データ・ベース
① 長沙呉簡研究会編（伊藤敏雄主編）「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡（壱)』釋文・原注・補注データ・ベース」桐版 936KB、2008 年
② 長沙呉簡研究会編（伊藤敏雄・阿部幸信主編）「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡（参)』釋文・原注データ・ベース」桐版 712KB、エクセル版 1035KB、2008 年
③ 長沙呉簡研究会編（伊藤敏雄・阿部幸信主編）「『長沙走馬楼三国呉簡　竹簡（貳)』釋文・原注データ・ベース」桐版 840KB、エクセル版 1247KB、2007 年

大阪教育大学リポジトリアドレス
http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/

６．研究組織
(1)研究代表者
伊藤　敏雄（ITO TOSHIO）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00184672
(2)研究分担者
福原　啓郎（FUKUHARA AKIRO）
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60221537
葭森　健介（YOSHIMORI KENSUKE）
徳島大学・総合科学部・教授
研究者番号：50191648
關尾　史郎（SEKIO SHIRO）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70179331
窪添　慶文（KUBOZOE YOSHIFUMI）
立正大学・文学部・教授
研究者番号：40011382
中村　圭爾（NAKAMURA KEIJI）

大阪市立大学・事務局・副学長
研究者番号：00047383

(3)連携研究者
無し

(4)海外共同研究者
李　凭
中国・華南師範大学・歴史系・教授
朴　漢済
韓国・ソウル大学校・東洋史学科・教授

(5)研究協力者
安部　聡一郎
金沢大学・人間社会研究域歴史言語文化学系・准教授
室山　留美子
大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化センター・研究員
永田　拓治
大阪市立大学大学院文学研究科・博士課程